

会報

通常総会議事報告

社団法人 溶接学会 第78回通常総会の議事を下記のとおり報告いたします。

日時 平成22年4月21日(水)10:00～11:30

場所 東京ビッグサイト 会議棟6階 「607会議室」 東京都江東区有明3-21-1

平成21年度事業報告及び会務報告

(平成21年3月1日 至平成22年2月28日)

平成21年度において本会は次の事業を行った。

I 事業報告

1. 全国大会 (定款第3条1項)

1.1 春季全国大会

平成21年4月22日～24日 アルカディア市ヶ谷(東京)
研究発表講演(102件), 特別講演(1件), シンポジウム(講演7件), フォーラム(講演7件), 若手会員のためのイブニングフォーラム(講演3件)
参加者 延約1,000名

1.2 秋季全国大会

平成21年9月9日～11日 徳島大学(徳島)
研究発表講演(189件), 特別講演(1件), 論文賞受賞講演(1件), フォーラム(講演8件), 技術セッション(講演5件), 若手会員のためのイブニングフォーラム(ポスター発表35件)
参加者 延約1,500名

2. 講習会 (定款第3条1項)

2.1 平成21年度溶接入門講座(第37回)

会期 平成21年6月3日, 4日
会場 科学技術館(東京)
受講者 61名

2.2 平成21年度溶接工学夏季大学(第57回)「中堅技術者講座」

会期 平成21年8月31～9月2日
会場 大阪大学大学院工学研究科岡田メモリアルホール
受講者 56名

2.3 平成21年度溶接入門講座@広島(第38回)

会期 平成21年11月19日, 20日
会場 広島大学大学会館
受講者 78名

3. 刊行 (定款第3条3項)

3.1 溶接学会誌78巻2号～79巻1号(8冊)

主な内容 資料等73篇, データシート6件, 展望1篇

3.2 溶接学会論文集27巻2号～28巻1号(4冊)(WEB)

主な内容 研究論文44篇

3.3 全国大会講演概要集 第84集および第85集(2冊)

3.4 平成21年度溶接工学夏季大学教材「溶接中堅技術者講座」

3.5 Mate 2010 16th Symposium on "Microjoining and Assembly Technology in Electronics" 論文集(マイクロ接合

研究委員会)

3.6 Welding Guide Book 6 Developments in Advanced Welding Processes (溶接法研究委員会)

3.7 溶接構造シンポジウム2009 講演論文集 (溶接構造研究委員会)

4. 研究活動 (定款第3条1項)

4.1 研究推進部会(小溝裕一部会長)

2回の会合を開催し, 各研究委員会の活動状況の把握及び調整並びに特別研究会, アドホック研究会の活性化を図った。また, 学会活動の情報化に伴う研究委員会ホームページの拡充, 研究委員会設置形態の見直し, 国際化対応, 第四期科学技術基本計画への対応などについて検討した。各研究委員会の将来ビジョンの検討の中から, 各研究委員会ごとのアカデミックロードマップを策定した。また, 本年より溶接法研究委員会とアーク物理研究委員会が合体し, 新溶接法研究委員会として活動を開始した。

(1) 春季全国大会においてフォーラム「科学に基づく溶接・接合技術のイメージングー溶接アーク物理の追究ー」を開催した。

(2) 秋季全国大会においてフォーラム「溶接・材料革新技術の新構造設計への展開」を開催した。

(3) 特別研究会「建築鉄骨における溶融亜鉛めっき割れに関する研究」(中込忠男主査)

圧縮ないし引張りの予歪を与えた試験体にめっき時の熱による外力を組み合わせた実験を計画したが実験まで至らなかった。柱梁仕口部スカラップ周りのめっき割れ防止のため, ノンスカラップ+丸孔による亜鉛抜きと裏当て金を全線溶接する仕様を提案している。この裏当て金の溶接仕様がJASS6と異なるため性能確認実験を行い構造的な性能が確保できることを確かめた。

(4) 特別研究会「溶接・接合プロセスのビジュアル化最前線」(田中学主査)

研究会の成果を「溶接・接合プロセスのビジュアル化最前線」という電子書籍に(CDROM)まとめ, 平成21年10月に発行した。電子書籍の売り上げにより, 研究会活動費を全額学会に返納した。さらに同10月に開催された財団法人溶接接合工学振興会第20回セミナー「ビジュアル化による溶接接合技術の新展開」において, 特別研究会の成果の一部を紹介した。

(5) アドホック研究会「FSWの品質保証に関する研究会」(安井利明主査)

平成21年度は5回の研究会を実施し, 研究課題と委員の分担を決定した。研究課題としては, 「塑性流動解析による接合不良部形成メカニズムの把握とその検出」と「非破壊検査による接合不良部位の定量的把握と機械的特性の評価」の2つを選定し, 各担当において研究を推進中である。

(6) 溶接学会記念基金助成活動（会務報告 4.2 項参照）

「若手溶接技術者・研究者のグローバルネットワークの形成」委員会(佐藤裕主査)

下記 AWF（アジア溶接連盟）関連活動に参加した。

① AWF シンガポール会議併催シンポジウム（シンガポール）
平成 21 年 7 月 13 日（月）にシンガポールにて開催された AWF シンガポール会議併催シンポジウムに 3 名の参加者を派遣し、3 名の参加者は同会議にて研究発表を行った。他国の研究発表は、中国 2 件、フィリピン 1 件であった。詳細に関しては学会誌 78 巻 7 号若手会員のページおよび 79 巻 2 号 じょうほう通ページにて報告記事を掲載した。

② 日韓若手シンポジウム（韓国・済州島）

平成 21 年 11 月 26 日（木）に韓国済州島・済州国際会議場で開催された第 6 回日韓若手溶接研究者シンポジウムに 6 名の参加者を派遣し、5 名の参加者は同会議にて研究発表を行った。溶接力学、溶接冶金からアーク物理など溶接工学に関する幅広い講演発表があり、活発な討論が行われ、50 名近く収容可能な会議室は常に満室状態であった。本シンポジウムを通して、日韓の溶接工学に関する最新情報を共有することができたとともに、さらに親密な人的ネットワークを形成することができた。

4.2 溶接構造研究委員会（有持和茂委員長）

会合名	開催年月日	開催地	出席者数	内容
第182回	21.3.18	東京	34	研究報告 5件 (日本船舶海洋工学会材料・溶接研究会と合同委員会)
第183回	21.7.24	長崎	24	研究報告 3件 見学会
第184回	21.11.17～18	大阪	215	溶接構造シンポジウム2009 (溶接構造研究委員会創設50周年記念大会)
第185回	22.1.21	大阪	12	研究報告 4件

4.3 溶接法研究委員会（中田一博委員長）

会合名	開催年月日	開催地	出席者数	内容
第206回	21.5.19	東京	44	研究報告 5件
第207回	21.8.5	大阪	63	研究報告 6件
第208回	21.10.27～28	神戸	47, 53	研究報告 7件 見学会
セミナー	21.12.8	東京	50	溶接法セミナー 「溶接プロセスの高機能化にむけた新しい展開」
第209回	22.2.4～5	東京	52, 49	研究報告 11件、特別講演1件

4.4 溶接冶金研究委員会（篠崎賢二委員長）

会合名	開催年月日	開催地	出席者数	内容
第196回	21.5.15	東京	33	研究報告 7件
第197回	21.9.4	大阪	26	研究報告 7件
第198回	21.11.26	韓国	35	研究報告 10件 (韓国溶接学会 溶接冶金研究委員会と合同開催)
第199回	22.2.4～5	東京	52, 49	研究報告 11件、特別講演1件

4.5 溶接疲労強度研究委員会（森 猛委員長）

会合名	開催年月日	開催地	出席者数	内容
第221回	21.4.14	東京	25	研究報告 5件
第222回	21.7.30	東京	26	研究報告 4件
第223回	21.11.2	東京	22	研究報告 1件 見学会
第224回	22.1.12	東京	24	研究報告 4件

4.6 高エネルギービーム加工研究委員会（阿部信行委員長）

会合名	開催年月日	開催地	出席者数	内容
第61回	21.6.8	東京	23	研究報告 6件
第62回	21.12.3	千葉	22	研究報告 3件 見学会
第63回	22.2.2	尼崎	28	研究報告 4件

4.7 軽構造接合加工研究委員会（里中 忍委員長）

会合名	開催年月日	開催地	出席者数	内容
第85回	21.6.11	東京	34	研究報告 6件
第86回	21.9.17	大阪	25	研究報告 6件
第87回	21.12.4	横浜	27	研究報告 3件 見学会
第88回	22.1.15	東京	25	研究報告 6件

4.8 マイクロ接合研究委員会（日置 進委員長）

会合名	開催年月日	開催地	出席者数	内容
第90回	21.6.5	東京	59	研究報告 5件
第47回分科会	21.7.3	東京	67	研究報告 6件
第91回	21.9.4	東京	71	研究報告 6件
第48回分科会	21.10.23	東京	58	研究報告 6件
第92回	21.12.4	東京	52	研究報告 6件
シンポジウム	22.2.2～3	横浜	470	Mate2010シンポジウム

4.9 界面接合研究委員会（鈴木暁男委員長）

会合名	開催年月日	開催地	出席者数	内容
第81回	21.5.22	東京	28	研究報告 5件、特別講演 1件
第82回	21.9.25	東京	25	研究報告 5件
第83回	22.1.22	東京	25	研究報告 6件

5. 国内活動（定款 3 条項 4）

5.1 日本溶接会議（JIW）の活動援助を行った。

5.2 本会、日本溶接協会、産報出版の合同企画にて、平成 22 年度春季全国大会における第 3 回溶接連合講演会の開催に向けて準備した。

5.3 共催、協賛、その他（承認順）

日本学術会議材料工学委員会、日本非破壊検査協会、日本溶接協会、日本高圧力協会、腐食防食協会、日本機械学会、軽金属溶接構造協会、日本材料学会、日本金属学会、日本鉄鋼協会、日本自動車技術会、日本工学会、その他関係学協会の活動に協力した。

- (1) 共催：日本学術会議材料工学委員会「第 53 回材料工学連合会」(09.10.19-21)
- (2) 協賛：日本非破壊検査協会「第 16 回超音波による非破壊評価シンポジウム」(01.29)
- (3) 協賛：日本非破壊検査協会「第 40 回応力・ひずみ測定と強度評価シンポジウム」(01.29)
- (3) 後援：日本溶接協会「第 42 回原子力シンポジウム、原子力プラントの経年化とその対応を考える」(02.20)
- (4) 協賛：神奈川科学技術アカデミー「KAST 教育講座、めっき技術の最先端と新展開」
- (5) endorsing sponsor:First Int.Electron Beam Welding Symposium Conference(IEBW)(11.17-18)
- (6) 協賛：日本高圧力協会「技術セミナー、新たに制定された圧力設備維持規格」(04.08)
- (7) 協賛：エコデザイン学会連合会「EcoDesign2009」(12 月)
- (8) 協賛：金属系材料研究開発センター「鉄鋼材料の革新的高強度・高機能化基盤研究開発、第 1 回シンポジウム」(04.14-15)
- (9) 協賛：腐食防食協会「腐食防食技術実践・応用セミナー」(02.12)
- (10) 協賛：日本非破壊検査協会「第 12 回表面探傷シンポジウム、表面探傷技術による健全性診断」(03.12-13)
- (11) 協賛：日本海洋工学会「第 21 回海洋工学シンポジウム」(08.06-07)
- (12) 協賛：日本機械学会「第 2 回特別講演会、第 2 回若手技術(社)のための技術者倫理セミナー」(05.23)
- (13) 協賛：日本電子顕微鏡学会「第 19 回電子顕微鏡大学」(04.23)
- (14) 協賛：軽金属溶接構造協会「アルミニウムブレージングセミナー」(07.24)
- (15) 協賛：日本機械学会「大 17 回機械材料・材料加工技術講演会(M&)2009」(11.28)

(16) endorsing:IEBW(DVS,AWS,IIW)"1st Int Electron Beam Welding Conf",Nov. 17-18,2009,Chicago,USA	(49) 後援：日本鉄筋継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書改訂講習会」(10.15-11.27)
(17) 推薦募集：東レ「H21 東レ科学技術賞及び東レ科学研究助成」	(50) 後援：日本機械学会「革新的ものづくりのための最適設計法入門，講習会」(09.7-8)
(18) 協賛：日本材料学会「第 9, 第 10, 第 11 回初心者のための疲労設計設計講習会」(08.27-28,09.03-04)	(51) 協賛：エレクトロニクス実装学会「第 19 回マイクロエレクトロニクスシンポジウム(MES2009)」(09.10-11)
(19) 協賛：日本材料学会「第 6 回ノートパソコンで出来る原子レベルのシミュレーション入門講習会」(09.07-08)	(52) 後援：日本鉄筋継手協会「調査研究発表会（大阪）」(10.15-11.27)
(20) 協賛：日本材料学会「第 14 回破壊力学シンポジウム」(10.23-24)	(53) 共催：溶接接合工学振興会「第 20 回セミナー，ビジュアル化による溶接接合技術の新展開」(10.29)
(21) 協賛：日本材料学会「第 39 回初心者のための有限要素法講習会」(07.30-31,08.20-21)	(54) 協賛：日本鋼構造協会「構造シンポジウム 2009」(11.19-20)
(22) 協賛：塑性加工学会「第 275 シンポジウム，塑性加工におけるレーザー技術最前線」(06-18)	(55) 協賛：日本高圧力技術協会「第 19 回セミナー，圧力設備の材料，設計，施工，維持管理」(11.26-27)
(23) 協賛：日本非破壊検査協会「安心・安全な社会を築く先進材料・非破壊計測技術シンポジウム，新材料及びその製品の非破壊評価技術」(03.24-25)	(56) 協賛：日本高圧力技術協会「第 7 回セミナー事故から学ぶリスクマネジメント，構造的災害事故は何故起こり防止できないのか」(11.18-19)
(24) 協賛：日本非破壊検査協会「保守検査シンポジウム」(03.05-06)	(57) 協賛：第 14 回核融合炉材料国際会議(ICFRM-14)「ICFRM-14」(09.06-11)
(25) 協賛：日本鉄鋼協会「ユビタキス時代に向けたチタンの元素戦略と新しい用途展開」(10.09)	(58) 協賛：レーザー加工学会「第 72 回講演会」(12.16.17)
(26) 協賛：日本鉄鋼協会「西山記念技術講座，トップが語る鉄鋼技術の進歩と今後の展開」(11.27)	(59) 協賛：日本溶接協会「シンポジウム，保全技術者に役立つ新しいプラント圧力設備の溶接補修指針」(11.05-06)
(27) 協賛：塑性加工学会「シンポジウム，自動車部品産業における今後のグローバル化の問題」(05-30)	(60) 協賛：日本ガスタービン学会「セミナー，ガスタービンおよびエネルギー関連技術の最新動向」(10.01.21-22)
(28) 共催：日本学術会議「原子力総合シンポジウム 2009」(5 月) 共催金 5,000 円	(61) 協賛：腐食防食協会「第 50 回技術セミナー，非鉄金属材料の防食技術と使い方」(09.11)
(29) 協賛：日本高圧力技術協会「セミナー，圧力設備の材料，設計，維持管理」(06.11-12)	(62) 協賛：日本保全学会「第 8 回保全セミナー，リスクと保全」(10.06)
(30) 協賛：日本保全学会「保安セミナー」(03.27)	(63) 協賛：日本材料学会「第 29 回，疲労講座」(12 月)
(31) 協賛：日本保全学会「第 6 月学術講演会」(08.3-05)	(64) 協賛：日本材料学会「第 24 回，高温強度シンポジウム」(12.3-4)
(32) 協賛：塑性加工学会「第 60 回連合講演会」(10.31-11.03)	(65) 協賛：国際シンポジウム ECO-MATES2011「持続可能社会のための材料科学と技術革新」(11.28-30)
(33) 講演：日本溶接協会「原子力国内シンポジウム，原子力発電プラントにおける疲労設計のあり方を考える」(06.12)	(66) 協賛：日本溶接協会「ステンレス溶接施工におけるトラブル事例とその原因・対策，講習会」(09.17)
(34) 協賛：日本非破壊検査工業会「非破壊検査総合展 2009」(11.18-20)	(67) 協賛：日本非破壊検査協会「第 17 回アコーステック・エミッション総合コンファレンス」(08.28-29)
(35) endorsing:ARI Int Conf Organization"LNG Technology \$ Project Week",Sep7-11,2009,Shanghai,China	(68) 協賛：日本高圧力技術協会「セミナー，超音波による欠陥寸法測定－非破壊検査の新しい展開」(10.01-02,12.09-10)
(36) 協賛：日本自動車技術会「全日本学生フォーミュラ・ものづくり・デザインコンペティション」(09.09-12)	(69) 協賛：日本溶接協会「講習会，熱切断作業の品質と安全，ガス，プラズマ，レーザー切断の勘所」(08.28)
(37) 共催：日本学術会議材料工学委員会「第 53 回日本学術会議材料工学連合講演会」(10.19-21)	(70) 協賛：強化プラスチック協会「54th FRP CON-EX2009 講演会」(10.27-28)
(38) 協賛：日本機械学会「3 次元 CAD による『設計の次号か・効率化』入門～標準化とテンプレートにより繰り返し設計の自動化をいかに実現するか」(07.28)	(71) 協賛：腐食防食協会「第 36 回コロージョンセミナー，実務に役立つ腐食防食の基礎」(08.26-28)
(39) 協賛：日本機械学会「機会の費・機械週間」(08.07)	(72) 協賛：腐食防食協会「第 49 回セミナー，腐食を理解するための電気化学入門」(07.23)
(40) 後援：神奈川科学アカデミー「平成 21 年度 KAST 教育講座，次世代研磨加工技術，塑性加工基礎技術」	(73) 協賛：製造科学技術センター「日本ものづくり技術戦略マップ成果報告会」(08.05)
(41) 協賛：日本非破壊検査協会「第 7 回学術セミナー」(06.26)	(74) 協賛：レーザー加工学会「第 72 回レーザー加工学会講演会」(12.16~17)
(42) 協賛：日本材料学会「事例で学腐食損傷と解析技術出版記念講演会」(07.10)	(75) 協賛：日本ガスタービン学会「GTSJ ガスタービンセミナー」(H22.01.21~22)
(43) 協賛：日本材料学会「第 24 回信頼性シンポジウム」(12.10-11)	(76) 協賛：日本溶接協会「保全技術者に役立つ新しいプラント圧力設備の溶接補修指針シンポジウム」(11.05~06)
(44) 協賛：日本高圧力技術協会「第 8 回セミナー，圧力機器及び配管によるガスケットフランジ締結体のシーリングテクノロジー」(08.20-21)	(77) 協賛：Indian Institute of Welding「National Welding Seminar2009-10」(Kolkata Dec.10-12,2009)（費用負担無しという条件で協賛）
(45) 協賛：高温学会「ポスト鉛フリーハンダ実装技術の最前線」(07.17)	(78) 協賛：(社)自動車技術会「No.09-09 シンポジウム：車体のロバスト設計の基礎とその応用」(H21.12.10)
(46) 協賛：第 2 回核融合エネルギー国際ビジネスフォーラム組織委員会「IBF-FE09」(09.07-09.09)	(79) 協賛：(社)日本機械学会「No.09-135 講習会石炭ガス化複合発電の開発状況と次世代石炭火力技術」(H21.12.04)
(47) 協賛：日本学術会議材料工学委員会「ものづくりの持続的なイノベーションへ向けた基盤科学技術提言」(07.23)	(80) 協賛：(社)日本機械学会「No.09-123 第 3 回若手技術者のための技術者倫理セミナー：技術系管理者におけるリスクマネジメントを考える」(H21.11.07)
(48) 後援：日本機械学会「シンポジウム，機械工学の展望：21 世紀の役割と貢献」(11.5)	

(81) 協賛：(社)日本機械学会「No.09-122 講習会 IC タグ活用入門：生産効率向上から廃棄物処理まで」(H21.11.11)	講演大会」(H22.3.10-12)
(82) 協賛：(社)日本材料学会「第 58 期第 3 回分子動力学部専門委員会（公開部門委員会）」(H21.11.27)	(110) 協賛：(社)日本鉄鋼協会「第 201・202 回西山記念技術講座：鋼管の製造技術の現状と将来」(H22.6.4/6.18)
(83) 後援：(社)日本溶接協会「原子力構造機器の材料，設計，施工，検査，維持に関する講習会」(H21.12.08-09)	(111) 協賛：(社)エレクトロニクス実装学会「第 11 回エレクトロニクス実装学会関西支部若手研究会セミナー」(H22.1.29)
(84) 後援：(社)日本溶接協会「ステンレス鋼溶接施工におけるトラブル事例とその原因・対策」(H21.12.03)	(112) 協賛：(社)日本顕微鏡学会「第 20 回電子顕微鏡大学」(H22.4.22-23)
(85) 協賛：(社)日本高圧力技術協会「HPI 技術セミナー：第 10 回エネルギー貯槽等技術基準と安全性」(H22.02.04-05)	(113) 共催：(社)日本材料学会「第 54 回材料工学連合講演会」(H22.10.25-27) 共催分担金 10,000 円
(86) 協賛：(社)日本金属学会「分科会シンポジウム：核融合システムにおける材料開発課題ーキーテクノロジーは何か」(H22.01.09)	(114) 協賛：レーザ加工学会（(社)高温学会）「第 73 回レーザ加工学会講演会」(H22.5.25ー 26)
(87) 協賛：(社)日本溶接協会・産報出版株「2010 国際ウエルディングショー」(H22.04.21-24)	(115) 協賛：(社)日本溶接協会「LMP シンポジウム 2010 レーザおよびレーザ加工の基礎と応用」(H22.3.8)
(88) 協賛：(財)溶接接合工学振興会「特別講演会：原子力発電所・超高層建築の耐震問題」(H21.12.08)	(116) 協賛：(社)日本機械学会「第 4 回技術者のための技術者倫理セミナーー事故・不祥事の背景から学ぶリスクマネジメントー」(H22.5.15)
(89) 協賛：(社)日本高圧力技術協会「HPI 技術セミナー：第 8 回リスクベースメンテナンスの基礎と応用：関連 HPIS の解説」(H22.02.22)	(117) 協賛：(社)日本機械学会「No.10-202 第 6 回日本・中国・韓国構造および機械システムの最適化シンポジウム」(H22.6.22ー25)
(90) 協賛：(社)日本塑性加工学会・(社)日本機械学会「平成 22 年度（第 41 回）塑性加工春季講演会」(H22.05.28-30)	(118) 協賛：日本保全学会「第 9 回保全セミナー状態監視技術～保全への活用（海外・他産業事例を交えて）～」(H22.3.30)
(91) 協賛：(社)腐食防食協会「第 168 回腐食防食シンポジウム：超臨海水及び重臨海水を用いるプロセスにおける材料問題」(H21.12.17)	(119) 協賛：日本保全学会「第 7 回学術講演会」(H22.7.13-15)
(92) 協賛：(社)日本材料学会「第 46 回 X 線材料強度に関する討論会」(H22.01.08)	(120) 協賛：(社)日本非破壊検査協会「第 7 回放射線による非破壊評価シンポジウム」(H22.3.4-5)
(93) 協賛：(社)日本材料学会「第 1 回日本複合材料合同会議 JCOM-39/JSCM 2010」(H22.03.09-11)	(121) 協賛：(社)日本非破壊検査協会「第 8 回保守検査シンポジウム」(H22.3.4-5)
(94) 協賛：(社)日本材料学会「第 15 回分子力学シンポジウム」(H22.05.21)	(122) 協賛：(社)日本機械学会「No.10-19 講習会もう一度学ぶ機械材料学（案）ー機械・製造技術者のための基礎講座ー」(H22.9.10)
(95) 協賛：(社)日本材料学会「第 44 回 X 線材料強度に関するシンポジウム」(H22.07.08-09)	(123) 協賛：(社)エレクトロニクス実装学会「ICEP2010 実装技術国際シンポジウム」(H22.5.12-14)
(96) 協賛：(社)日本材料学会「第 12 回機械・構造物の強度設計，安全性評価に関するシンポジウム」(H22.02.25-26)	5.4 次の学協会と機関誌を交換し研究連絡，情報交換を行った。
(97) 後援：(社)日本溶接協会「第 14 回『溶接の研究』講習会」(H21.12.22)	学協会名 誌 名 学協会名 誌 名
(98) 協賛：NPO 日本保全学会「第 2 回連携講演会：検査・評価・保全に関する連携講演会」(H22.01.18-19)	軽金属学会 軽金属 日本建築学会 建築雑誌
(99) 協賛：(社)日本非破壊検査協会「第 5 回赤外線サーモグラフィによる非破壊評価シンポジウム」(H22.01.15)	軽金属溶接構造協会 軽金属溶接 〃 Journal of Asian Architectur and
(100) 後援：(財)神奈川科学技術アカデミー「めっき技術の最先端と新展開」(H22.02.09-10)	高温学会 高温学会誌 Building Engineering
(101) 協賛：(社)日本非破壊検査協会「安全・安心な社会を築く先進材料・非破壊計測技術シンポジウム」(H22.03.18-19)	高圧ガス保安協会 高圧ガス 日本高圧力技術協会 圧力技術
(102) 協賛：(社)日本非破壊検査協会「第 41 回応力・ひずみ測定と強度評価シンポジウム」(H22.01.08-09)	電気学会 電気学会誌 日本鋼構造協会 JSSC
(103) 協賛：(社)腐食防食協会「第 51 回技術セミナー：腐食防食専門士による『第 2 回腐食防食技術実践・応用セミナー』ースペシャリストのノウハウを学ぶー」(H22.02.09)	電気製鋼研究会 電気製鋼 日本接着学会 日本接着学会誌
(104) 協賛：(社)日本非破壊検査協会「第 17 回超音波による非破壊評価シンポジウム」(H22.01.28-29)	土木学会 土木学会誌 日本船舶海洋工学会 日本船舶海洋工学会誌
(105) 協賛：日本計算工学会「第 15 回計算工学講演会」(H22.5.26-28)	〃 土木学会論文集 〃 日本船舶海洋工学会論文集
(106) 協賛：画像センシング技術研究会「第 16 回画像センシングシンポジウム」(H22.6.9ー 11)	日本海事協会 日本海事協会誌 日本鉄鋼協会 鉄と鋼
(107) 共催・協賛：日本接着学会「第 48 回日本接着学会年次大会」(H22.6.24-25)	日本機械学会 日本機械学会誌 〃 ふえらむ
(108) 後援：(社)日本溶接協会「第 44 回原子力国内シンポジウム：地球温暖化防止に向けた原子力エネルギーを考えるー実力を発揮するためにー」(H22.2.16)	日本橋梁建設協会 虹橋 〃 ISIJ International
(109) 協賛：(社)エレクトロニクス実装学会「第 24 回エレクトロニクス実装学会春季	日本金属学会 まてりあ 日本非破壊検査協会 非破壊検査
	日本溶射協会 溶射 日本溶接協会 溶接技術
	6. 国際活動（定款 3 条項 4）
	6.1 国際溶接学会（IIW）関連
	JIW の活動を支援して年間を通じ国際溶接学会（IIW）の日常活動及び年次大会（第 62 回）（シンガポール，7 月 12 日～17 日）に参加した。参加者は 48 カ国 600 名，日本からは 72 名（除同伴者）。
	6.2 アジア溶接連盟（AWF）の活動及び総会に参加した。
	若手溶接技術者・研究者の活動の一環として，AWF シンガポール会議併催シンポジウム（7 月），日韓若手シンポジウム（11 月）に参加した。

6.3 次のとおり機関誌を交換し、研究情報の交流を推進した。

誌 名	国 名
1 Australian Welding Research	オーストラリア
2 Revista Soldadura	アルゼンチン
3 Schweiss- & Prufung Technik	オーストリア
4 Reveu de la Soudure - Lastijdschrift	ベルギー
5 Leurotest Technical Bulletin	〃
6 Metalurgia	ブラジル
7 Revista da Soldagem	〃
8 Soldagem & Inspeccao	〃
9 Canadian Welder & Fabricator	カナダ
10 Zvaranie	チェコ
11 Welding News	〃
12 Hitsaustekniikka Svetsteknik	フィンランド
13 Soudage et Techniques Connexes	フランス
14 Bulletin Singanaletique	〃
15 Sciaky	〃
16 Schweissen und Schneiden	ドイツ
17 Schweisstechnik	〃
18 Wissenschaftliche Zeitschrift	〃
19 Indian Welding Journal	インド
20 Journal of the Association of Engineers	〃
21 Rivista Italiana della aldatura	イタリー
22 Korean Scientific Abstracts	韓国
23 大韓金属学会誌(Journal of KMM)	〃
24 大韓溶接学会誌	〃
25 Metals and Materials	〃
26 Korean Welding Society	〃
27 Electronic Materials Letters	〃
28 Lastechniek	オランダ
29 Przegląd Spawalnictwa	ポーランド
30 Biuletyn Instytutu Spawalnictwa	〃
31 Polish Engineering	〃
32 Tecnologia Qualidade	ポルトガル
33 Buletin IPI	ルーマニア
34 Serie de Metalugia	〃
35 Sudura	〃
36 Revista de Metallugia	スペイン
37 Revista de Soldadura	〃
38 Soldadura y Tecnologias de Union	〃
39 Svetsaren	スウェーデン
40 Schweisstechnik Soudure	スイス
41 Welding & Metal Fabrication	英国
42 Welding Review	〃
43 Metals Technology	〃
44 Welding International	〃
45 Welding Journal	米国
46 Welding Research Abroad	〃
47 WRC Bulletin	〃
48 CA Selects(Ceramic Materials)	〃
49 Avtomaticheskaya Svarka	ウクライナ
50 Strength of materials	〃
51 All - Union Monthly of Engineering Physics	〃

52 Zavaranie svarovani	スロベニア
53 Varilna Tehnika	〃
54 Metallic Materials	〃
55 Science in China	中国
56 地質学報	〃
57 金属学報	〃
58 鋼 鉄	〃
59 Transactions of the China Welding Institution	〃
60 冶金分析	〃
61 材料科学	〃
62 China Welding	〃
63 Singapore Welding Society Newsletter	シンガポール

II. 会 務 報 告

1. 第 77 回通常総会

日 時 平成 21 年 4 月 23 日 (木)

開会 午前 10 時 00 分 開会 午前 11 時 30 分

場 所 アルカディア市ヶ谷 (私学会館) (東京)

議決権を有する者：理事 20 名 (うち 13 名は代議員と兼任)

評議員 146 名

出 席 32 名 (理事 15 名, 代議員 29 名) (理事と代議員を兼任 12 名)

委任状 80 名 (代議員)

合 計 112 名 (総数 153 名)

監 事

出 席 平岡和雄, 山本英幸

特別幹事 興石房樹

議 事

- | | |
|----------------------|----|
| ① 平成 20 年度事業及び会務報告の件 | 承認 |
| ② 平成 20 年度収支決算報告の件 | 承認 |
| ③ 監査報告 | 承認 |
| ④ 平成 21 年度事業計画の件 | 承認 |
| ⑤ 平成 21 年度収支予算の件 | 承認 |

⑥ 名誉員推薦

野本敏治

⑦ 特別員推薦

小林紘二郎, 山本英幸, 松村裕之, 黄地尚義, 加藤光昭

⑧ 表彰

溶接学会功績賞

中川幸也, 山本英幸

溶接学会貢献賞

平岡和雄

溶接学会業績賞

塚本 進, 南二三吉

佐々木賞

黒川剛志, 安田功一

溶接学会論文賞並びに論文奨励賞

溶接学会論文賞

半田恒久, 鈴木伸一, 木治 昇, 豊田昌信,

宮田隆司

溶接学会論文奨励賞

西本浩司, 藤田善宏

田中亀久人賞

向井康士, 相見 圭, 川本篤寛
 溶接学術振興賞
 青嶋 勇, 屋良秀夫, 奥本泰久, 杓名宗春, 瀬川雅司,
 三田常夫
 妹島賞
 北側彰一
 溶接学会研究発表賞
 平成 20 年度春季全国大会
 李 熙根, 西本浩司, 岡野成威, 野村和史
 平成 20 年度秋季全国大会
 岡田 徹, 奥健太郎, 小野貢平, 黒木義博
 溶接学会ベストオーサー賞
 内原正人, 森 清和・樽井大志・長谷川隆久・吉川暢弘,
 児島明彦
 溶接学会シンポジウム賞
 若野基樹・板橋武之・千綿伸彦・藤吉 優・谷江尚史,
 山中 哲, 久保夏希
 溶接学会奨学賞
 小嶋佳介, 佐藤信也, 益子拓樹, 三澤 慧, 渡邊 汗,
 岡本圭右, 宮川 堅, 井上晴雄, 野本裕己, 松本倫幸,
 森川 滋, 巽 裕章, 北野萌一, 吉村正彦, 今村博之,
 吉本浩輔
 溶接学会技術貢献賞
 内原正人, 早川直哉, 田上 稔, 茅野林造
 溶接学会国際協力賞
 青木 満, 浅井 知, 阿部信行, 阿部浩也, 稲垣正壽,
 石川 忠, 小川和博, 井上正二, 上玉利康博, 上西啓介,
 大畑 充, 小川和博, 片山聖二, 鴨 和彦, 堅田寛治,
 川人洋介, 金 裕哲, 菊野智教, 北側彰一, 黒川剛志,
 近藤正恒, 粉川博之, 小関敏彦, 久保尚重, 興石房樹,
 里中 忍, 崎野良比呂, 佐藤嘉洋, 佐野智一, 柴原正和,
 鈴木暁男, 高橋 誠, 田代真一, 塚本雅裕, 福本信次,
 萩原寛之, 桐原聡秀, 西川 宏, 寺崎秀紀, 津村卓也,
 古賀信次, 柴原正和, 田崎利和, 高橋康夫, 寺崎俊夫,
 中村照美, 名山理介, 中山 繁, 串田守可, 中里敏雄,
 平岡和雄, 廣瀬政義, 藤本公三, 望戸 実, 護 雅典,
 森 裕章, 村山雅智, 森安雅治, 松枝啓之, 椋本厚司,
 藤 雅雄, 麻 寧緒, 森 清和, 三上欣希, 望月正人,
 安田功一, 安田 修, 山本 光, 山根 敏
 溶接学会会長特別賞
 山本英幸, 中西保正, 平田好則, 村川英一, 才田一幸,
 上山智之, 田中 学, 芹澤 久
 ⑨ 溶接学会フェロー認定
 浅井良彦, 堀井行彦, 和田宏一, 難波圭三, 平岡和雄,
 黒川剛志, 奥本泰久
 ⑩ 溶接学会記念基金その他の寄付金の受入れ状況及び活
 用状況報告
 ⑪ 感謝状贈呈
 九州支部(平成 20 年度秋季全国大会開催担当)殿

2. 理事会(定例 7 回)

本年度の主な議題・決議事項

(1) 溶接学会活性化について

学会の活性化に向けて, 企画委員会を中心に, 将来展望と目標
 を検討・策定する活動を実施し, 学会構成員の評価向上, 溶接技
 術者教育, 支部との連携のあり方, 会員へのサービスのあり方な

どアクションプログラムの効果を引き続き検討するとともに, 会
 勢増強, 活動資金獲得に向けた活動を推進した。

(2) 財政改善について

逼迫した財政状態改善のために, 人件費, 事務費の節減, 会誌
 印刷費のコスト低減など支出を引き締めるとともに, 講習会など
 会費外収入の増加を図り逐次実行に移した。

(3) 会勢の拡張について

正員の増強, 学生に対する啓発及びサービス活動の強化, そし
 て財源の安定化と学会活動の浸透を図った。

(4) 特別研究活動の推進について

研究推進部会の提案に基づいて, 特別研究会の設置及び活動の
 推進について審議した。特別研究会 2 件, アドホック研究会 1 件
 が活動した。

3. 業務委員会活動

3.1 企画委員会(平田好則委員長)

H20, 21 年度活動目標「学会メリットの見える化・魅せる化の
 推進を通しての学会活性化と会勢拡大」に向けて, 学会誌やイン
 ターネットによる当該分野の国内外の情勢・学術情報の発信に
 努めた。その結果, 学会 HP への訪問数は 39 万回(2010.3 時点)で,
 論文集へのアクセスは新刊・既刊ともに月に 450 件程度あり, 広
 く活用されていることが分かった。さらに, 学会メリットを明ら
 かにするため, 溶接学会特有の情報をもつ研究委員会の HP 整備
 を推進するとともに個人会員, 賛助員, 研究委員会委員など会員
 資格に応じた情報獲得レベルを検討した。

また, グローバル化が急速に進展するなか, 我が国のものづく
 り分野の国際競争力を強化するため, 溶接接合技術の将来ビジョ
 ンを策定した。具体的には, (1)次世代溶接・接合科学の体系化, (2)
 持続循環型社会構築のための溶接・接合技術の進化, (3)溶接・接
 合技術のイノベーションの 3 テーマを重点課題として, 各研究委
 員会の 2020 年までのロードマップを学会誌で公開した。さらに,
 H23 年度よりスタートする第 4 期科学技術基本計画への積極的
 な参画を目指し, 日本学術会議や材料連合協議会などにおいて,
 次世代溶接接合工学の必要性をアピールすることで, 溶接学会の
 プレゼンスを示した。また, 新法人化への移行に向けて, 本会の
 事業内容を検討し, 「公益性のある一般社団法人」への移行を目指
 すこととし, H22 年度より具体的に申請準備をスタートすることに
 した。

3.2 溶接情報化委員会(南二三吉委員長)

年度内 1 回の委員会, 2 回の E-mail 持ち回り会議, 4 回の学会
 事務局・システム業者との打合せ会合を開催し, 本会の活動の情
 報化に関する諸検討を実施した。主な活動は以下の通りである。

(1) 会員認証システムの発足

学会 HP を通した学会定期刊行物, 委員会資料の閲覧,
 JWES 溶接情報センターの情報閲覧のために, 会員認証
 システムを発足させることとした。認証システムの利用に
 は, 個人情報(会員番号, 漢字・ローマ字氏名, E-mail ア
 ドレス)の本会への届出が必要で, これらは学会 HP より
 届け出る。これに伴って, 本会 HP をリニューアルした。

(2) 会員管理システムの一元化

上記の会員認証システム, 委員会管理システム(研究推進
 部会)の新たな発足に伴い, 会員管理システムの一元化を
 はかることとした。

(3) JWES 溶接情報センターとの相互リンク

JWES 溶接情報センターと学会 HP の相互リンクを開始
 した。溶接情報の利用にあたっては, 本会の会員認証シス

テムへの届出が必要。溶接情報センターで閲覧できる情報は、溶接技術教育シート、溶接・接合技術 Q&A、溶接・接合技術入門 e-Book、溶接技術データベース、抵抗スポット溶接テキスト、鋼材溶接性計算ツール、アーク溶接の各種動画などである。

(4) Web 著作権の確認

研究委員会資料の web 公開に伴う著作権対応については、溶接学会投稿規定（2.2 著作権）に準拠するものとし、電子化・インターネット公開に際しても、本規定に準拠することを追記した。なお、委員会資料の公開の仕方（一般公開、会員公開、委員会委員限定公開）は委員会判断に委ねるものとし、一般および会員公開の場合には、著作権侵害がないように注意を促すとともに、講演者（著者）に web 公開の許諾をとることとした。

(5) 研究委員会資料の CD、DVD 販売法の設定

研究委員会における CD・DVD 販売の販売方法は、
・事前に販売数を定め、学会事務局が販売する（在庫販売）方法
・委員会が主体となって、注文に応じ都度 CD・DVD を作成して、委員会が販売する方法
のいずれかとするものとした。どの販売方法を選択するかは委員会の判断による。

3.3 編集委員会（廣瀬明夫委員長）

溶接学会誌及び溶接学会論文集の編集及び刊行を行った。論文集は WEB 論文集として発行した。溶接学会誌各号の記事に対する学会員モニター 115 名によるアンケートを実施し、学会誌の内容充実に努めた。平成 21 年 12 月で 2 年のモニターの任期が終了したので、2 年間のアンケートの取りまとめを行った。また、平成 22 年 1 月号より、新たなモニターを選任してアンケートを継続した。企画委員会で実施した「溶接・接合技術の将来ビジョン」策定活動に連携して、各研究委員会が作成した「溶接・接合技術のロードマップ」中間報告を学会誌 Vol.78 No.5（7 月号）に掲載した。また、学会誌 Vol.79 No.1（1 月号）では、「溶接・接合技術の将来ビジョン」のまとめとして、特集記事「つなぐ将来ビジョン—溶接・接合技術の未来構想—」を企画し、ロードマップの最終報告を掲載した。年間の学会誌掲載記事より、ベストオナー賞候補者 2 件を選考した。溶接学会誌は創刊号からを対象として、科学技術情報発信・流通総合システム（J-stage）にて発行日から 3 年経過後に公開、溶接学会論文集は創刊号からを対象として発行直後から同サービスにて公開した。英文誌 STWJ（Science and Technology of Welding and Joining）の共同編集に引き続き参加した。

3.4 論文査読・審査委員会（粉川博之委員長）

平成 21 年 7 月 29 日に年一回全委員が集まる定例委員会を開催し、インターネット利用による電子査読委員会が定着し、投稿論文査読開始時における査読者の選任およびその審議・承認手続きと投稿論文の査読及び掲載可否決定の審査をインターネット上で随時迅速に行っていることを確認した。本年度は、論文投稿から査読完了（受理日）までの期間が 6 ヶ月以内の論文が全論文の 96%以上、4 ヶ月以内の論文約 81%、最短のものでは 52 日で査読を完了し、ほぼ例年通りであった。

また、英文誌 STWJ（Science and Technology of Welding and Joining）の共同編集と STWJ-JWS collaboration 推薦投稿を継続しているが、平成 21 年度の溶接学会論文の STWJ 誌への推薦は

少なく 2 件にとどまった。

なお、平成 20 年 11 月開催の 8WS 発表論文の内、論文集への掲載希望論文を 8WS 実行委員会・論文委員会と協力して査読審査し、第 27 巻 2 号に 8WS 特集論文として頁に「s」を付けて 54 件を刊行した。

3.5 全国大会運営委員会（高橋邦夫委員長）

- (1) 年度内 4 回の委員会を開催し、平成 21 年度春季・秋季全国大会および平成 22 年度春季・秋季全国大会の企画・運営について協議決定した。
- (2) 講演概要集第 84 集および第 85 集を編集発行した。
- (3) 平成 21 年度秋季および平成 22 年度春季全国大会プログラムを編成した。
- (4) 全国大会研究発表講演の「溶接学会研究発表賞」審査を平成 21 年度春季及び秋季大会にて実施した。
- (5) 科学技術情報発信・総合流通システム（J-Stage）を利用した、発表および投稿申込みを実施した。
- (6) 全国大会をウエルディングショーと連携開催することについて協議し報告した。
- (7) 概要集の CD-ROM 化について協議し報告した。

3.6 溶接教育委員会（平田好則委員長）

- (1) 年度内 2 回の委員会を開催し、本会の普及・教育活動に関する課題について検討した。
- (2) 平成 21 年度溶接入門講座を 2 回開催した。（前掲）
- (3) 平成 21 年度溶接工学夏季大学を開催した。（前掲）
- (4) IIW 第 XIV 委員会等と連絡し、各国と溶接教育について情報を交換した。
- (5) 日本溶接協会との連携による国際溶接学会（IIW）溶接技術者資格制度特認コースの試験が 1 回行われた。プロフェッショナル・インタビュー、プロジェクトワーク、最終筆記試験を実施し、IWE1 名、IWS6 名がディプロマ資格を取得した。
- (6) 溶接学会各支部や研究委員会、日本溶接協会が企画・実施した講習会やセミナー、シンポジウムの IIW 履修ポイントについて、IIW 特認コース WG を通してアナウンスした。
- (7) 溶接技術者・溶接技能者の育成のための学協会—教育機関（大学・高専・工業高校）の連携活動の一環として、大阪大学接合科学研究所の IIW-ATB 取得に向けて支援した。

3.7 国際交流委員会（村川英一委員長）

- (1) 日本溶接会議（JIW）の活動を通じ、国際溶接学会（IIW）の活動に参画した。
- (2) アジア溶接連盟（AWF）の活動に参加した。
- (3) 日本、中国、韓国の 3 ヶ国ジョイントシンポジウムの実現に向けて、活動を開始した。

4. 若手会員の会（山本元道委員長）

4.1 若手会員のためのフォーラム（共催：（財）溶接接合工学振興会）

- (1) 春季全国大会イブニングフォーラム
主 題：製造現場における溶接技術の各種事例（企業若手技術者から 3 件の講演）
講 演：奥倉隆人氏（㈱IHI マリンユナイテッド）、
松延慎吾氏（住友金属工業㈱）、
尾座本大輔氏（JFE エンジニアリング㈱）
日 時：平成 21 年 4 月 23 日（木）17:00～18:30
場 所：アルカディア市ヶ谷（春季全国大会開催会場）

第3会場
参加者：約40名
(2) 秋季全国大会フォーラム
主 題：若手の研究ポスターセッションと交流会（ポスター発表35件，ポスター発表賞3件）
ポスター賞：堀江祥平氏（広島大学），辻村吉寛氏（大阪大学），伊藤真介氏（大阪大学）
日 時：平成21年9月10日（木）18:00～19:30
場 所：徳島大学工学部工業会館（秋季全国大会開催会場）
参加者：約80名

4.2 若手会員のための研究会・見学会・シンポジウム・セミナー

(1) 研究会・見学会
場 所：新日鐵エンジニアリング株研究棟，羽田空港拡張工事富津工場（千葉県富津市）
日 時：平成21年10月6日（火）13:00～17:30，7日（水）9:00～12:00
参加者：約15名
講 師：川人洋介（大阪大学），山本元道（広島大学），寺崎秀紀（大阪大学），木村文映氏（新日鐵エンジニアリング），宮坂史和（大阪大学），箱田利秀氏（新日鐵エンジニアリング）

(2) 第5回韓国－日本若手溶接研究者合同シンポジウム
主 題：The 5th KWJS - JWS Joint Symposium of Young Researchers（韓国で講演5件ずつ計10件）
日 時：平成21年11月26日（火）13:00～16:40
場 所：韓国済州島 Jeju Convention Center #301（韓国溶接学会秋季全国大会開催会場）
日本側講演者：寺崎秀紀（大阪大学），瀬知啓久（鹿児島県工業技術センター），西川 宏（大阪大学），山本元道（広島大学），佐藤 裕（東北大学）
参加者：約40名

(3) 基礎セミナー（東海支部「第16回溶接技術講習会－溶接技術の基礎と進歩の最前線－」との共催）
場 所：名古屋市工業研究所第2会議室（愛知県名古屋市）
日 時：平成21年12月9日（水）9:30～17:00
参加者：30名
講 師：宮坂史和（大阪大学），川人洋介（大阪大学），佐藤 裕（東北大学），山本元道（広島大学），川上博士（三重大学）

(4) 研究会・見学会（九州支部「第2回若手研究グループ研究会・見学会」との共催）
場 所：日立造船（株）有明工場（熊本県本県玉名郡）
日 時：平成22年1月13日（水）14:00～17:10，14日（木）9:30～12:30
参加者：約40名
講 師：森園靖浩（熊本大学），後藤浩二（九州大学），山本元道（広島大学），中谷光良（日立造船）

4.3 広報および情報交換

(1) 溶接学会誌「若手会員の会自由編集ページ」に，運営委員会，イブニングフォーラム，シンポジウムの報告等を掲載した。

(2) 溶接学会誌の特集記事として第78巻第3号に「バイオミメティクス－自然に学ぶ－」を企画・掲載するとともに，「スポットライト－若手の特集記事－」として「溶接タマゴ」および「私の溶接履歴」を，合計6件掲載した。
(3) ホームページに活動報告，行事案内等を掲載した。
(4) メーリングリスト（E-mail）による情報交換を促進した。有効登録者数約200名（平成22年2月28日現在）E-mail投稿数約20通（平成21年3月1日から平成22年2月28日まで）

4.4 若手会員の会運営委員会（山本元道委員長）
計2回の運営委員会を開催し，活動方針と企画について審議した。

(1) 第40回運営委員会
日 時：平成21年4月23日（木）11:30～12:30
場 所：アルカディア市ヶ谷（春季全国大会開催会場）
出 席：13名
(2) 第41回運営委員会
日 時：平成21年9月10日（木）12:00～13:00
場 所：徳島大学工学部（秋季全国大会開催会場）
出 席：19名

5. その他の諸会合

支部長連絡会議	2
名誉員推薦審査委員会	1
特別員選考委員会	1
溶接学会業績賞審査委員会	1
佐々木賞審査委員会	1
溶接学会論文賞・溶接学会論文奨励賞審査委員会	1
田中亀久人賞審査委員会	1
溶接学会学術振興賞審査委員会	1
妹島賞審査委員会	1
溶接学会研究発表賞審査委員会	1
溶接学会シンポジウム賞審査委員会	1
溶接学会ベストオーサー賞	1
溶接学会技術貢献賞審査委員会	1
溶接学会フェロー選考委員会	1

6. 会 勢

会員数（平成22年2月末現在）

賛助員		団体員 (口数)	個人会員					個人会員
会員数	口 数		名誉員	特別員	推薦会員	正 員	学生員	合 計
364	908	41(41)	35	71	10	2,732	246	3,094

会員の移動

種 別		賛 助 員		正 員	学生員	団体員 （口数）
		会員数	口 数			
21年度初在籍数		382	949	2,867	253	41(41)
入 会		6	6	57	99	1(1)
退 会		24	32	162	17	1(1)
口 数	増	-----	-----	-----	-----	-----
	減	(8)	15	-----	-----	-----
資 格	増	-----	-----	16	-----	-----
	減	-----	-----	* 6	16	-----
計		364	908	2,732	246	41(41)

*：名誉員・特別員へ移行（6名）、正員40名を整理、学生員73名を整理